

意見の概要

テーマ1：教員志望の意欲を高める方策

- ・ 現役の教員にアンケートを取って改善策を早期に確実に実行すること、中・高の部活動に教員を付ける顧問制度の廃止と部活動の地域移行を 2030 年までに行うこと、教職員調整額（給特法）をやめてタイムカードで管理して残業代を支払うことなどが必要。
- ・ 雑用が多すぎるので、業務は分別してほしい。保護者への対応が多いので、弁護士や警察官の意見も必要。担任は授業だけに専念する必要がある。もっと現場のことを世間は理解してほしい。

テーマ2：ヤングケアラーの支援施策

- ・ 看護職が連携してヤングケアラーの課題に取り組むことができる体制づくりに力を貸してほしい。看護職を活用してほしい。
- ・ 経済力がなければ、子どもに与える負担が大きくなることを回避できないと思う。経済力に尽きると思う。

テーマ3：就学前の育児・教育

- ・ いつも先生たちが忙しそうで、余裕が感じられない。多くの先生を配置し、自然に触れる豊かな経験ができるようにするため、待遇を良くする必要がある。

テーマ4：防災・減災対策

- ・ 防災に関する体験会を地区ごとに定期的実施してほしい。幅広い世代が顔を合わせることで、共助の気持ちを育むことができるのではないかな。
- ・ 堤防整備などのハード面の強化は必要である。河川周辺の農地等は国や県が一括して買い上げ、一面を河川にするべき。少しでも被害が少なくなるように、集団移転や住民の住み分け区域の設定が必要である。

テーマ5：不登校の子どもの学びの保障をすすめるには

- ・ 各市町村にある「適応指導教室」の見直し、不登校の子どものための「居場所」「フリースクール」の充実を図るための予算措置、校内における居場所の工夫をし、子どもたちが自分に合う場所を提供する必要がある。
- ・ 大きな方針を立てるときには「子どもの権利条約」の理念を共通認識とし、子どもたちの権利が侵害されている状況をいかに改善するかという視点から考えるべき。子どもたち、保護者、民間支援者や現場の声を聞いて、継続的にオープンな話し合いを

重ねることが必要である。

テーマ6：移住者から見た「秋田の良いところ・変えたいところ」

- ・ 災害、特に水害に対する備えがおろそかな印象があるので、被災時の支援体制を整える必要がある。秋田は災害に対して安全であることの裏返しとも思え、それ自体は誇るべきことなので、IT企業などのサテライトオフィス・バックアップオフィスの誘致に力を入れ、同時にハザードマップ整備や、災害の起きにくい地域に徒歩で生活できる都市生活者の移住しやすい賃貸住宅を整備すべきである。
- ・ 東京周辺では生活圏で気軽に手に入るものが、秋田ではわざわざ探しに行かないと手に入らない。秋田で販売しなくても商売としては問題ないという疎外感やSNSで伝わる。こうした高齢世代では分からない東京との差を埋めていかないと、若い人はどんどん出ていくと思う。

テーマ7：秋田県の学習状況調査

- ・ 現場では状況調査対策のプリントに終始しており、本末転倒である。日々の授業内容に基づく宿題をこなした上で調査を受けることで十二分なはず。調査対策を主とした過ごし方は、見直してほしい。
- ・ 小学生の子が、決まり事が多く、学校が楽しくないとよく話す。先生の数が足りず大変な思いをしていることはヒシヒシとを感じるが、先生も生徒も伸び伸びとした学校生活となるよう、細かすぎる規定や指導などではなく、「自ら考える」機会が多くある学校生活となることを望む。

テーマ8：気候危機を打開していくための取り組み

- ・ テレビ番組で一番の温室効果ガスは水蒸気と言っていたので、夏場の風呂の設定温度を38度にするよう推奨し、さらに下水処理施設に排水の温度を下げる設備を追加してはどうか。排水の温度を下げることにより、海水温も低下し、ハタハタが戻ってくることもつながると思う。
- ・ 県内の街路樹を増やし、高齢者が自宅からバス停まで日陰を通ってたどり着けるようにすることを提案したい。エアコンは、室内の暖気を室外に排出し、単なる熱交換をしているにすぎない。街路樹は日光を遮り、地上の温度上昇を防いでくれる。